
将来像、目標、方針など
(説明資料)

1 将来像・目標の設定

(1) 上位計画の将来像等

上位計画の将来像等

◆葛飾区基本構想（令和3年7月）

本区の
将来像

みんなで作る、水と緑と人情が輝く
暮らしやすいまち・葛飾

河川、美しい花や緑に囲まれた自然環境、思いやりの心あふれる人情に支えられた人と人とのつながり、地域、文化、産業などの本区の特性を磨き上げ、輝かせながら、誰もが生涯にわたって安全・安心・快適に、自分らしく暮らし続けられるまち「葛飾」を実現します。

◆葛飾区都市計画マスタープラン（令和5年12月）

まちづくり
の基本理念

～人と人がつながり、地域を輝かせるために～
みんなで作る、水と緑豊かな、
安全で快適に暮らし続けられる『かつしか』

まちづくり
の目標

- (1) 様々な自然災害に対応し、被災を繰り返さないまち
- (2) 人々が集い、憩える、賑わいある魅力的なまち
- (3) 安全で、移動しやすい交通環境が整備されたまち
- (4) 誰もが親しめる、河川や緑豊かな都市環境が広がるまち
- (5) 多様な主体が協働し、豊かな地域社会を構築するまち

第1回策定委員会の意見

- 区民の意識や都市部、市街地では「花」も影響が大きいのではないかと
- 量だけでは判断できない地域らしい緑、地域ごとの特徴を生かした緑の創出が必要
- 広い意味での連携・協働がこれからの緑の基本計画のベースとなる

上位計画、第1回策定委員会
から抽出したキーワード

水、豊かな緑、美しい花

安全で快適な暮らし

親しめる河川、緑

地域らしさ

みんなで作る（協働）

人と人とのつながり

(2) 将来像・目標の設定

上位計画、第1回策定委員会
から抽出したキーワード

水、豊かな緑、美しい花

安全で快適な暮らし

親しめる河川、緑

地域らしさ

みんなで作る（協働）

人と人とのつながり

計画の方向性

<全体的な方向性>

量的拡大から
地域特性に応じた緑・水辺の
維持・創出を踏まえた質を重視する
段階への移行

将来像（案）

みんなではぐくむ水と緑でつながるかつしか

区民と守り育てた水と緑を未来に引き継ぐとともに、活用の促進により、安全で快適に暮らし続けられるまちをつくり、生活の質やまちの魅力向上につなげていく。

目標（案）

水と緑豊かな
まちの実現

緑・水辺の保全、緑化推進や公園整備など、あらゆる取組により、みどり率※の向上を図る。

水と緑に関する
区民満足度の向上

緑・水辺の保全・創出・活用に関わる取組の成果として、緑の豊かさや水辺の親しみやすさを実感する区民を増やしていく。

水と緑に関する
利活用の促進

緑・水辺の利用促進や活動への参加者を増やしていく。

※みどり率

緑被率（区全体の面積に対する「樹木被覆地」「草地」「農地」「屋上緑化」の緑で覆われた部分の面積の割合）に「河川等の水面の占める割合」と「公園内で樹林等の緑で覆われていない面積の割合」を加えたもの

2 方針の設定

方針（案）

計画の方向性

<特に重視する視点>

① まちの魅力となる
緑の創出・活用

② 水辺の保全・
創出・活用

③ 防災性向上に寄与
する緑・水辺の確保

④ 既存ストックの適切
な管理・更新と貴重な
緑・水辺の保全

⑤ 緑・水辺を守り育て、
活用する担い手の拡大

第2回策定委員会の検討対象

方針1 地域の魅力を高める緑づくり

公園の整備や管理、道路をはじめとした公共施設の緑化やまちづくりを通じた緑の創出、都市農地の保全・活用などにより、まちの魅力を高めていく。

方針2 地域の魅力を高める水辺づくり

区の特徴の一つである水辺を区民が親しめる空間とするとともに、活用の促進により地域のにぎわいを創出する。また、貴重な自然環境として、生きものの生息・生育環境の維持・保全を図る。

方針3 地域の安全を支える緑・水辺づくり

自然災害に強いまちを支え、防災・減災等の多様な効果を生む緑とオープンスペースを充実させていく。また、公園や街路樹などの緑と河川空間などの水辺を適切に維持管理し、次世代につないでいく。

方針4 緑・水辺でつなぐ人づくり

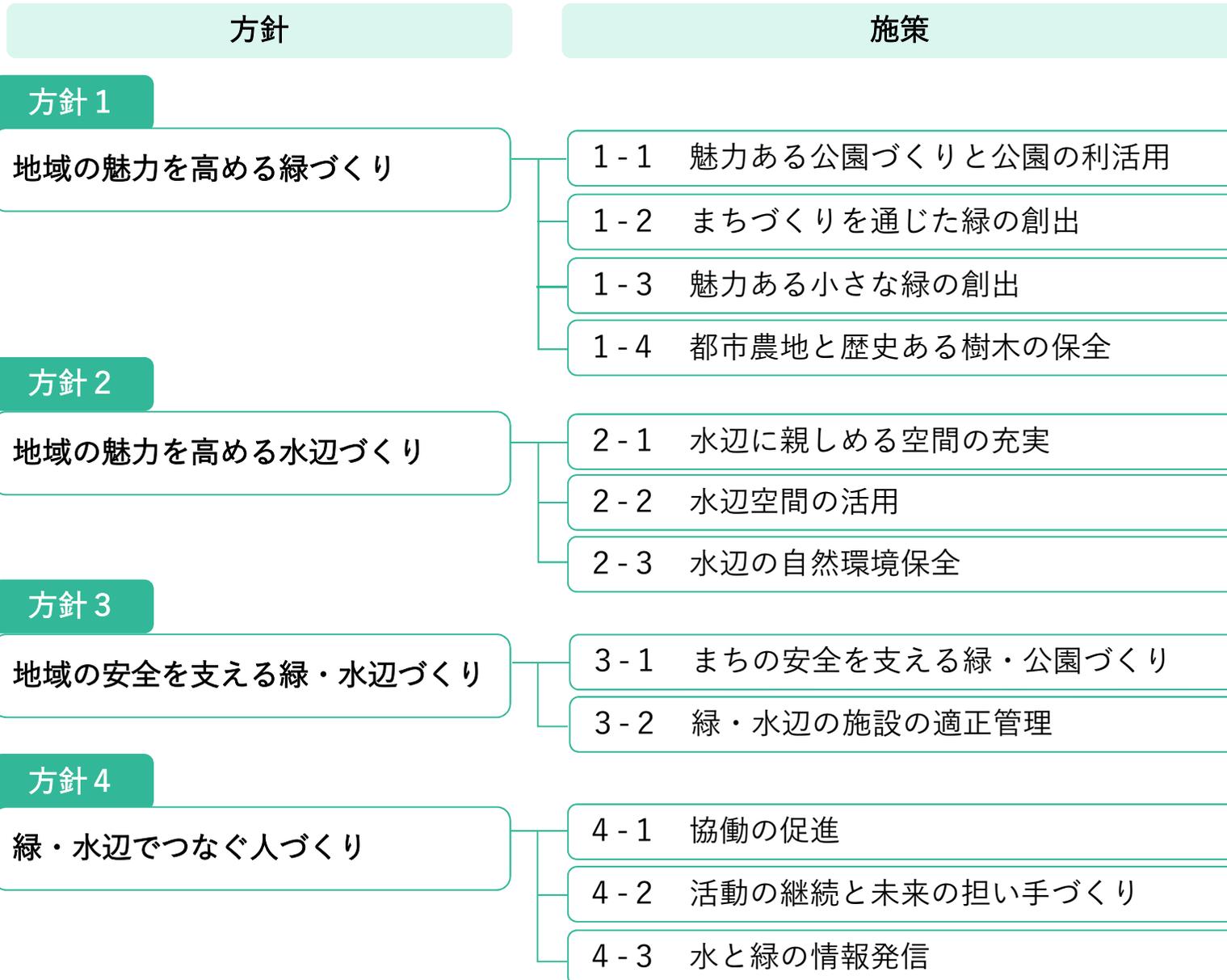
多様な担い手と連携した緑・水辺に関する活動により、人のつながりやまちづくりへの主体的な参加を促進するとともに、区民の健康づくりや子どもの成長、良好なコミュニティづくりなどを支える場としての活用を進めていく。

3 施策体系（案）

施策体系（案）

将来像
(案)

みんなではぐくむ水と緑で
つながるかっしか



4 将来イメージと配置方針（案）

将来イメージ（案）

住宅地

玄関先の緑化、地先園芸など、小さな緑がまちを彩っている

身近な公園

様々なタイプの公園があり、多様な区民が思い思いの時間を過ごしている

自然豊かな水辺

区民参加で自然環境の保全や環境学習が行われている

農地が多く残るエリア

農地や寺社林などの緑が守られ、緑豊かでゆとりと潤いある住環境が継承されている

今後、イラストなどを用いて表現を工夫

河川沿いの空間

水辺のネットワークが形成され、散歩やジョギングなどを楽しんでいる

駅周辺

まちづくりによって設けられた緑とオープンスペースで、人々が快適に過ごしている

公共施設

連続性のある緑地空間が創出されている

水辺の拠点

観光・展望・飲食などの拠点として区内外から訪れる人で賑わっている

特色のある公園

民間活力も活かしながら広々とした空間、地域資源も含めた、特色ある公園づくりが行われている

道路

街路樹が健全に育ち、緑豊かな景観がつけられている

配置方針（たたき台）



①区全体をつなぐ水と緑

||||| 河川・水辺のネットワーク

○○○○○ 緑のネットワーク

②拠点

●●●●● 水と緑の拠点

● 広域拠点

③ネットワーク

— 地域レベルの緑のネットワーク

— 水辺のネットワーク

④土地利用の特性を踏まえ緑の保全・創出を図るエリア

■ 農地と調和した、緑豊かでゆとりある住宅地をめざすエリア

■ 都市環境の保全を図る区域

■ 低中層の住宅、商業・業務施設において小さな緑を創出し、緑豊かな街並み形成をめざすエリア

■ 市街地の良好な景観の形成を図る区域

■ 小さな緑の創出、オープンスペースの確保により住工が調和した市街地をめざすエリア

■ 公園配置を検討するエリア

現況 ■ 河川 ■ 一定規模を有する公園 ■ 一定規模を有する公園（新設）

方向性

<全体的な方向性>

量的拡大から
地域特性に応じた
緑・水辺の維持・創出を踏まえた
質を重視する段階への移行

<特に重視する視点>

①まちの魅力となる緑の創出・活用

②水辺の保全・創出・活用

③防災性向上に寄与する緑・水辺の確保

④既存ストックの適切な管理・更新と貴重な緑・水辺の保全

⑤緑・水辺を守り育て、活用する担い手の拡大

将来像・目標・方針（案）

(1) 将来像

みんなではぐくむ水と緑でつながるかつしか

区民と守り育てた水と緑を未来に引き継ぐとともに、活用の促進により、安全で快適に暮らし続けられるまちをつくり、生活の質やまちの魅力向上につなげていく。

(2) 目標

水と緑豊かなまちの実現

緑・水辺の保全、緑化推進や公園整備など、あらゆる取組により、みどり率※の向上を図る。

水と緑に関する区民満足度の向上

緑・水辺の保全・創出・活用に関する取組の成果として、緑の豊かさや水辺の親しみやすさを実感する区民を増やしていく。

水と緑に関する利活用の促進

緑・水辺の利用促進や活動への参加者を増やしていく。

※みどり率 緑被率（区全体の面積に対する「樹木被覆地」「草地」「農地」「屋上緑化」の緑で覆われた部分の面積の割合）に「河川等の水面の占める割合」と「公園内で樹林等の緑で覆われていない面積の割合」を加えたもの

(3) 方針

方針1 地域の魅力を高める緑づくり

公園の整備や管理、道路をはじめとした公共施設の緑化やまちづくりを通じた緑の創出、都市農地の保全・活用などにより、まちの魅力を高めていく。

方針2 地域の魅力を高める水辺づくり

区の特性の一つである水辺を区民が親しめる空間とするとともに、活用の促進により地域のにぎわいを創出する。また、貴重な自然環境として、生きものの生息・生育環境の維持・保全を図る。

方針3 地域の安全を支える緑・水辺づくり

自然災害に強いまちを支え、防災・減災等の多様な効果を生む緑とオープンスペースを充実させていく。また、公園や街路樹などの緑と河川空間などの水辺を適切に維持管理し、次世代につないでいく。

方針4 緑・水辺でつながる人づくり

多様な担い手と連携した緑・水辺に関する活動により、人のつながりやまちづくりへの主体的な参加を促進するとともに、区民の健康づくりや子どもの成長、良好なコミュニティづくりなどを支える場としての活用を進めていく。

施策体系（案）

1-1 魅力ある公園づくりと公園の利活用

1-2 まちづくりを通じた緑の創出

1-3 魅力ある小さな緑の創出

1-4 都市農地と歴史ある樹木の保全

2-1 水辺に親しめる空間の充実

2-2 水辺空間の活用

2-3 水辺の自然環境保全

3-1 まちの安全を支える緑・公園づくり

3-2 緑・水辺の施設の適正管理

4-1 協働の促進

4-2 活動の継続と未来の担い手づくり

4-3 水と緑の情報発信